



日本学術振興会によるアジアにおける ネットワーク形成の取り組み

HOPE ミーティング – Art in Science -

- 将来のアジア太平洋地域の科学研究を担う優秀な若手研究者を育成するため、ノーベル賞受賞者等の卓越した研究者との交流機会を提供
- アジア太平洋の14カ国・地域から選抜された約100名（うち日本人約30名）の博士課程の大学院生が参加
- テーマの「Art in Science」は、この会議をきっかけにして科学を志す若者が「科学の美しさ」を自ら体現していくことを期待して設定



- 第1回(2008年2月、茨城県つくば市)
対象分野:「ナノサイエンス・ナノテクノロジー」
組織委員長:江崎玲於奈博士(1973年ノーベル物理学賞)
- 第2回(2009年9月、神奈川県箱根町)
対象分野:「化学」
組織委員長:野依良治博士(2002年ノーベル化学賞)
- 第3回(2011年2~3月、東京)(予定)
対象分野:「物理学」
組織委員長:小林誠博士(2008年ノーベル物理学賞)



第2回HOPEミーティング参加ノーベル賞受賞講演者

左より、野依良治博士、ピーター・アグレ博士、江崎玲於奈博士、小林誠博士、李遠哲博士、田中耕一氏、利根川進博士



日中韓学術振興機関長会議

Heads of Research Councils in Asia: A-HORCs

日本・中国・韓国の学術協力を中核としてアジアにおいてハイレベルの研究活動を振興していくため、3ヶ国を代表する学術振興機関長が、各国の科学技術政策の動向や国際協力のあり方などについて意見交換を行うことを目的として2003年より毎年開催。

	日 程	開催地	テーマ
第5回	2007年11月5日～8日	中国(北京・海南島)	各国のファンディング・マネージメント
第6回	2008年11月5日～7日	韓国(濟州島)	各国の科学技術政策
第7回	2009年11月4日～6日	日本(広島)	科学技術・学術の国際交流活動について
第8回	2010年9月中旬	中国(西安)	各国の科学技術政策



日本学術振興会(JSPS)



中国国家自然科学基金委員会(NSFC)



韓国研究財団(NRF)

成果

日中韓フォーサイト事業実施

北東アジアシンポジウム開催

アジア学術振興機関長会議

Asian Heads of Research Councils: ASIAHORCs

- アジア域内の主要学術振興機関の長が会合し、各国の科学技術・学術政策の動向や研究資金制度、国際協力の方策等について意見交換を行う
- 参加国：日本、インド、中国、インドネシア、韓国、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナムの10カ国（この他に、ニュージーランドがオブザーバーで参加）
- 第1回(2007年)・第2回(2008年)は日本、第3回(2009年)は韓国にて開催。第4回(2010年)はマレーシアにて開催予定。

主な成果

- 各国の学術振興機関同士のネットワークの強化と相互の取り組みや課題についての情報共有
- 共同事業としてアジア地域共通課題の解決に向けた若手人材育成とネットワーク強化を目的としたシンポジウムを実施。日本学術振興会が主催した第1回共同シンポジウム(2009年7月、名古屋)では「アジアの生物多様性」をテーマにメンバー国を含む13カ国から約130名が参加。
(第2回はマレーシアで開催予定)



本会議における各国代表者
同士の意見交換



第1回ASIAHORCs共同シンポジウム